資料－２

北上川上流ダム再生環境影響評価技術検討委員会

設立趣意書

北上川上流ダム再生事業は、事業採択を経て、平成 31 年度から東北地方整備局が四十四田ダムの再生事業（「実施計画調査」段階）を進めています。

四十四田ダム湖岸の貯水位変動域においてはヨシやヤナギ類などの湖岸植生が生育や発達しており、周辺地域にはコナラを主体とする落葉広葉樹林やアカマツ林などの山林がひろがっています。水域の環境も、止水域であるダム湖、大小の沢・流入河川等、多様な河川形態がみられます。こうした陸域、水域が一体となった多様性に富んだ環境は、豊かな生態系を形成し、多種多様な動植物の生息・生育の場となっています。

このため、北上川ダム統合管理事務所は事業の実施にあたり、このような豊かな自然を可能な限り保全するため、環境影響評価法の対象となるダム改良の四十四田ダムについて、事前の調査、検討を行い、必要に応じて対策などを実施していくこととしました。

このことから、北上川上流ダム再生事業における環境要素に関する現状把握、予測や評価などに対する技術的な指導、助言を得るために、「北上川上流ダム再生環境影響評価技術検討委員会」を設置するものです。